

もてんすだより

莫妄想(まくもうそう)

いまから凡そ七百四十年前、元寇の危機にさらされていた鎌倉時代の出来事です。執権の北条時宗は強大な元軍との戦いに悩み、円覚寺の無学祖元禅師のもとを訪れました。無学祖元禅師は執権の時宗に莫妄想!!と一喝されています。時宗はこの一言で決心を固め、今できる限りの防備に全力を尽くし、あとは天命を待つ心境に至ったと言われています。

「莫妄想」とは禅宗ではよく使われることばです。

『禅語辞典』によると「妄想は二見にわたる分別心で、妄念することなかれ、という意味に使われる」とあります。心が二つに分かれ、迷うことを表現しています。

日本は往時この元寇で苦しみました。現在でも残念ながら○寇は続いています。○の字に、中・露・北朝鮮という字が入られることもあり、米国については八十年前より続けられ、今でも事実上は属国に近いかたちと言えます。黒寇と表現するならば、さしずめ幕末の黒船を指すことになるでしょう。

私たちは精神的に自立すること、そして気概ある生き方をする。そのためには妄想をしている隙はない筈です。



元寇図



人間は生きる上においていろいろなことで悩みます。とくに人間関係において、或いは仕事を円滑に進めるためにすることが、生きることは即ち悩みとなります。人生を「考えて、考えて、考え抜く」ことは大事なことです。必要以上に悩みをもつと、身体を壊したり、思わぬ事故を起こしたりもいたします。

人間とは「考える葦」とした哲学者のパスカルも或いは「悩む葦」と言いたかったのではないのでしょうか。

仏教では一つの思いについて「一念三千」といっております。思いは次々に重なり三千の思いに膨らみ際限なく広がり、自分で收拾がつかなくなることもあります。禅門では古来より「無業の一生莫妄想」「瑞巖只喚ぶ主人公」という言葉がございます。この思いを統一するためには主人公を持つこと。言葉を変えるなら「正念相續」と伝えていきます。「悩むことを止めよ」「悩むな」とも言い切っています。これらを端的に言うならば莫妄想という言葉でありましょう。

最近起こった事件では、一か月前に京王線の切傷事件があり、愛知県弥富市で起こった中学三年生の男子生徒が刺殺された事件等がありました。これらはあつてはならない事件が起こっています。

加害生徒は日ごろから被害生徒の言動に嫌な感情を抱いていたようですが、「思い」の重なりは処理できなくなって重大な事件を起こす要因にも繋がります。

私たちは思いのコントロールする糧、つまりは思いの手放しをする術を持たねばなりません。ある禅僧は「思いは頭の分泌物」と喝破しています。思い捉われないような日送りをしたいものです。



ペット供養墓の完成

昨今の生活事情を鑑みて、ペットを供養するための墓地を十二月二十二日に建立いたしました。ペットをお墓に入れて供養したい方は長光寺にお問い合わせください。

場所は長光寺本堂の真後ろにございます。お墓参りに来られた際は、ご見学ください。



施食会のお知らせ

例年通り五月二十三日に開催予定です。コロナ禍のため、近くなりましたら開催の有無を手紙やホームページなどでお知らせいたします。

墓地のご相談

核家族化が進み、昨今は墓地の相続について困られている方が多くいらっしゃいます。お困りの方は長光寺にご相談ください。

令和三年十一月十四日、長光寺本堂にて私共の仏前結婚式を挙行しましたことを、皆様にご報告いたします。

これからは夫婦で力を合わせ、お檀家様と共に長光寺を支えていきたいと存じます。

何分にも未熟者ですので、折に触れて色々と御指導賜りますようお願い申し上げます。

長光寺副住職 松倉 徳允

令和四年 年忌表

一周忌／令和三年
三回忌／令和二年
七回忌／平成二十八年
十三回忌／平成二十二年
十七回忌／平成十八年
二十三回忌／平成十二年
二十七回忌／平成八年
三十三回忌／平成二年
三十七回忌／昭和六十一年
五十回忌／昭和四十八年

編集後記

令和三年も終わりを迎えますが、コロナウイルスとの闘いも長く続いております。最近のご法事を行う方も以前のように多くなり、段々と元の生活に戻りつつあります。

令和四年では皆様と笑顔を見せ合いながら会える日が来ることを願っております。

〒一六九・〇〇七三

東京都新宿区百人町一の五の二

☎ (〇三) 三二〇九・五三六〇

玉寶山 長光寺

